

# 第2回 「写真で見る富里の歴史」

2019・9・29

—七栄 150 年。大正・昭和・平成の記憶—

林 田 利 之

## 1. 富里の写真資料

富里市内に残されている写真で、明確に最も古いといえるものは大正 14 年に「末廣農場職員」を写したものと考えられます。財閥であった岩崎家が経営した大農場であったことから、記録として頻りに写真が撮影されたのでしょう。

富里でカメラが普及し始めるのはそれから随分と時間が経ってからであり、一般の人々でも比較的裕福な家庭にカメラが普及し始めるのは昭和 30 年代以降であったと考えられ、それ以前の写真はいわゆる「写真屋さん（成田・八街・佐倉にあった）」のスタジオで撮影したものや、出張して撮影して貰った物がほとんどと考えられます。

このため、当時のカメラの性能は現代のものに比較して良いものではなかったはずですが、フィルム自体が大判であったためか、撮影された写真は細部まで鮮明に映し出されており、また、丁寧な現像処理が施されたものが多いことから、長い年月が経っているにも関わらず、綺麗な状態で残っているものが多いということが特徴といえます。

今回の講座では、第 1 回の「写真で見る富里の歴史」でお見せできなかった資料を使って、富里の様々な過去の姿を観て行きたいと思います。



図 1 大正 14 年に撮影された末廣農場内での職員集合写真

## ●七栄地区の写真



図 2 昭和 30 年頃のクリーンセンター前の道路。奥には当時盛んに作られていた麦畑が見えます。



図 3 昭和 46 年の富里小学校の航空写真。現在は 7A スクエアと呼ばれ、TUTAYA やモスバーガーが軒を連ねています。



図 4 昭和 30 年代、七栄交差点付近で撮影された道路工事の写真。交差点から三里塚方面を撮影しています。

道路表面を削り取り、砂利を厚く入れて整地をただけの道路ですが、それまでの道路に比較して格段に平坦な道となりました。

図 5 手話 30 年代後半に撮影されたと考えられる七栄の秋祭りで山車を引く人達。

山車は地区の人々の手作りであり、思い思いの装飾が施されていたようです。

